



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

自動車リサイクル士制度認定講習会 (新規) 仙台会場 【自リ士】制度見直し後初の講習会開催



ELV機構は、「自動車リサイクル士制度認定講習会」を10月6日から7日の2日間にわたって仙台会場(戦災復興記念館/宮城県仙台市)にて開催しました。本講習会は、受講者25名(うち全工程22名、引取・フロン工程3名)のほか、行政等からのオブザーバー参加者や関係者を含めた計44名の参加のもと開催され、自動車リサイクル士制度見直し後、初の新規受講者を対象とした講習会となりました。

講師はELV機構のほかに行政や自動車メーカーからも



本講習会では、ELV機構のインストラクターを中心に講師を務めました。行政や自動車メーカーの方にも講師としてご協力いただきました。

(写真上)「自動車リサイクル制度の概要」
東北経済産業局 資源エネルギー環境部
環境・リサイクル課
課長補佐 佐川 泰三 様



(写真下)「自動車メーカーの取り組み」
一般社団法人日本自動車工業会
環境委員会 リサイクル・廃棄物部会
部会長 嶋村 高士 様

目次

巻頭言	1
自動車リサイクル士	1
東北ブロック交流会	4
未来部会事業所見学会	4
産構審・中環審合同会議	5
大阪府組合募金活動	6
東京江戸川組合40周年	6
メーカー提供記事【本田】	7
鉄スクラップ最新情報	8
行事予定・お知らせ	9
編集後記	9

巻頭言

先月、青森県弘前市で行われた東北ブロック地域団体交流会で「南部美人の挑戦」と題して、株式会社南部美人五代目蔵元の久慈浩介社長の記念講演があった。

日本酒をこよなく愛する社長が全世界に売り込みをかけてきた苦労話やエピソード、それは中々興味のある内容であった。努力の甲斐あって、一流航空会社ファーストクラスやラスベガス高級ホテルのレストランで採用されたりと世界の人々に飲まれるようになったそうだ。

社長曰く本当にいいものを作り情熱を伝えれば、いつか「世界はわかってくれる」との信念が実るそうだ。

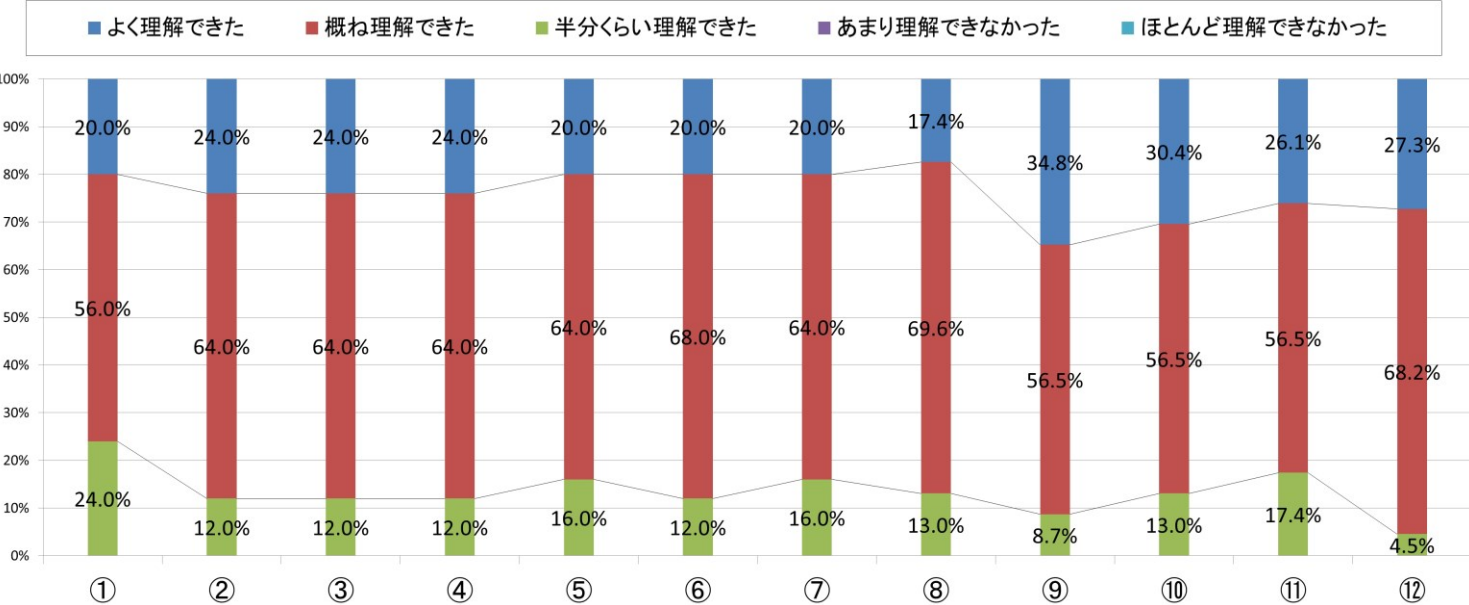
(広報部会 副部会長 田村 幸男)

講習会当日、受講者の皆様とオブザーバー参加者（行政等）の皆様にアンケートを実施しました。その集計結果を以下のとおり報告します。

受講者向けアンケート結果

(実施日：2016年10月6～7日／回答者：受講者25名)

■各講習の理解度

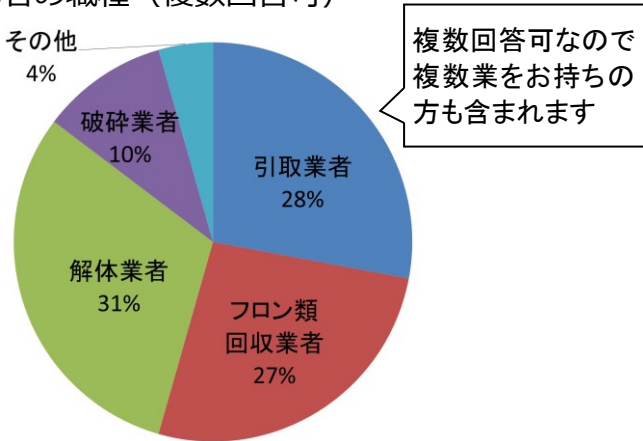


※全講習において「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」の回答はゼロ。
※横軸の丸付数字は下表のとおりに各講習内容を表す。

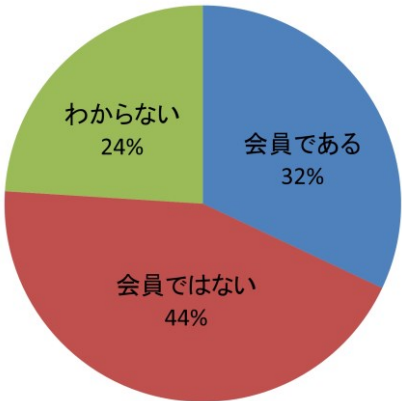
【講習内容】

		内 容	講 師
①	1日目	開会挨拶／ガイダンス／1巻1章 自動車リサイクル士制度について	酒井／三木／平地
②		1巻2章 自動車リサイクル制度の概要	佐川様（東北経済産業局）
③		1巻3章 1. 自動車リサイクルシステムと電子マニフェストシステム	江原
④		1巻3章 2. 引取工程の実務	菅原
⑤		1巻3章 3. フロン類回収工程の実務	竹内
⑥		1巻3章 4. 解体工程の実務	江原、中野
⑦	↓	1巻3章 5. 破碎工程の実務	菅原
⑧	2日目	2巻1章 安全作業・衛生管理	竹内
⑨		2巻2章 1. 自動車メーカーの取り組み	嶋村様（日本自動車工業会）
⑩		2巻2章 2. 自動車リサイクル業界の取り組み	中野
⑪		2巻3章 マネジメント	江原
⑫	↓	基礎のポイント復習	平地

■受講者の職種（複数回答可）



■ELV機構の会員か否か



■講習会における要望・意見（自由記述）※一部抜粋・表記等はすべて原文ママ

皆さん声が高くて非常に聞き取り易かったです。テキスト丸読みより体験談を軽く交えると良いかな？と思いました。

説明の中に具体例などをまじえていただけるとイメージが付きやすく伝わりやすいと思いました。マネジメントの説明は非常にわかりやすかったです。

非常に有意義だと感じました。ありがとうございます。

ディーラーだけでなく、一般の販売店、個人業者まで、言った方がいいと思う。（解体、破碎だけでなく）

各社数名必要であると思います。（1名以上）

地方でも行ってほしい。

オブザーバー向けアンケート結果

（実施日：2016年10月6～7日／回答者：行政など5名）

■講習会における要望・意見（自由記述）

資料が絵や図が多く、視覚的に理解しやすかった。現場での作業を確認したことがなかったので、作業方法が写真で解説されていたのはいいと思う。

講習内容については良好と思われるが、自分の仕事上で問題視している電子マニフェストや各種報告書等の作成についての講義が少なかった様に思う。

テキスト・講習内容ともに非常に詳しくわかりやすかったです。特にテキストについては図を多用しており見てすぐ理解できるようになっていて非常に良いと思いました。

実務についてはDVD等を作成すればさらに理解しやすくなることに加え、ELVリサイクル機構様の負担も減るのではないかと思います。

当県の業者にも是非本講習を受講していただきたいと思いますが、今回どのように業者に対して周知したのかわかりませんが、受講者が少なかったように思いますので、周知の方法についても再度ご検討いただきたいと思います。

講義大変ありがとうございました。参考になりました。
次回また講義を受けたいと思いますので、よろしくお願い致します。

（アンケート結果は以上）

フォトギャラリー：講習会の様子、講師陣



第5回東北ブロック地域団体交流会、青森にて開催



9月24日、東栄ホテル(青森県弘前市)にて、「日本ELVリサイクル機構 第5回 東北ブロック地域団体交流会」が開催されました。この交流会は東北六県の自動車リサイクル業者が一同に集い、情報交換や親睦を深めることを目的とし、年に一度、開催されています。第5回を迎える今年も地域団体長様をはじめ、たくさんの方々が出席されました。

交流会では各県の団体長様より各県で実施している事業内容の発表が行われ、「共同出荷の成功事例」「青年部の発足」「フェイスブックの開設」など様々な取り組みを共有することができました。また、講演会では株式会社南部美人代表取締役社長久慈浩介様(写真右)より『南部美人の挑戦—世界の「SAKE」になるまでの挑戦—』と題し、国内での日本酒業界の低迷を受けて、いち早く世界へ挑戦し日本酒の価値を上げる取り組みを中心にご講義を頂きました。参加者からは「苦悩も多々あったと思うが、どのような気持ちで乗り切ったか?」という質問に対し、「見返す気持ちと、とにかく挑戦するのみ」といった力強いお言葉を頂きました。この講演会を通じて、交流会参加者らは、異業種ではあるが自動車解体業も同じような局面であり、自動車リサイクルの価値を上げる挑戦を行っていかねばいけないと思いを強めました。

(青森県自動車リサイクル協同組合 江原 祐孝)

ELV機構会員を中心とした次世代の若手のほか、自動車再資源化協力機構も参加

未来部会、事業所見学会を北海道にて開催



10月21日・22日の2日間に渡り、ELV機構の未来部会は、「2016年度 第1回 事業所見学会」を北海道の地にて開催致しました。前日より雪が降り、当日は最高気温8℃と言う寒い中、全国のELV機構会員様を中心とした36名による見学会のスタートでした。1日目は石上車輛(株)様と伊丹車輛(株)様の事業所を見学、午後5時より宿泊先のホテル会議室にて自動車再資源化協力機構様による講演と「自動車リサイクル業界が取り組むべき課題」などをテーマとしたグループディスカッションを行いました。2日目は(株)マテック様と(株)協栄車輛様にて事業所の見学を行いました。

この事業所見学会は、前身の未来政策部会での政策部会としての一定の役割を終え、部会名を未来部会として初の企画であり、次世代を担う方々が抱えている問題や課題を忌憚なく話し合い、業界の活性化に繋がるツールの一つになれば良いという思いから始まりました。参加者の皆様にとっては各事業所様の設備、作業ノウハウ、色々と工夫されている工具類等々の勉強ができ、通常業務では得難い貴重な経験できたことと思います。そして、グループディスカッションを通しての新たなコミュニケーションが生まれたことではないかと思います。

最後になりましたが、今回受入先となってくださいました会社様におかれましては準備等にて大変ご迷惑をお掛け致しました。感謝申し上げます。この事業は今回の北海道を皮切りに全国8ブロックにて開催致します。この度参加できなかった方も次回からの参加をお待ちしております。そして、多くのことを一緒に学びましょう。

(未来部会 部会長 吉岡 篤史)

産構審・中環審が合同会議を開催、対応状況を報告

9月30日、「産構審・中環審 第44回 合同会議」が経済産業省本館（東京都千代田区）にて開催され、ELV機構の酒井代表理事が委員として出席しました。

当日は、昨年度の合同会議でとりまとめられた「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」に基づく対応状況について報告があり、その報告内容をふまえて議論がなされました。報告のあった対応状況について、取組・検討事項の全28項目のうち、我々に関係の深いものを抜粋して紹介します。

3 Rの推進・質の向上に向けた検討

自動車製造業者等・解体業者間での連携による環境配慮設計（D f E）の推進

- 自動車メーカー等と解体業者とが連携を図り、解体業者におけるD f E情報の認知度を向上させ、効率的な解体を促進する。
- 解体工程からの意見を集約し、これを設計工程にフィードバックすることにより、作業実態に基づいた効果的なD f Eの導入を推進する。

リサイクルプロセス全体での最適化の検討

- リサイクルプロセス全体での最適化という観点から、例えば全部再資源化手法の拡大、ポストシュレッダー技術の活用等、適時必要な取組について検討を行う。

精緻解体の促進

- D f Eの推進による精緻解体の促進：メーカー等によるD f Eの推進によって、解体工程の効率化・低コスト化を図り、解体業者等による精緻解体への積極的な取組を促進。
- インセンティブの付与：リサイクルの質の向上に繋がるような精緻解体や分別の徹底に取り組む解体業者に対して、その取組に応じ、経済的なインセンティブを与える取組を検討。
まずはモデル的に事業を行い、経済性やA S R発生量の抑制効果を検証する。

情報発信・共有の在り方等に関する検討

引取業者の情報発信・共有に関する課題への対応

- 関係団体は、使用済自動車引取依頼書に記載される事項に関する用語の統一化を始め、使用済自動車引取依頼書への記載事項の整理及びその普及に向けた取組を行う。その際、本検討会において作成した使用済自動車引取依頼書モデルケース等を活用しつつ、業界内での取組の統一化・底上げを図る。
- 引取業者及び関係団体は、使用済自動車の引取時におけるユーザーに対する情報発信のベストプラクティスをまとめ、他の引取業者と共有し、多くの引取業者に行き渡るように取組む。その際、本検討会において作成したベストプラクティス対応事例等を活用しつつ、業界内での取組の統一化・底上げを図る。

整備事業者、解体事業者等の情報発信・共有に関する課題への対応

- 整備事業者、解体事業者並びにリサイクル部品供給事業者は、ユーザーのリサイクル部品に関する更なる認知度向上及び利用拡大のため、ユーザーの理解の促進に向けて、損害保険会社や部品商などの各業態と連携しつつ情報発信・共有に取り組む。
- 優良な事業者の育成に向け、各種講習制度等の活用を推進するとともに、こうした優良事業者等の情報をユーザーに向け積極的に発信する。
- 日本ELVリサイクル機構とJARCは、ユーザーのリサイクル部品の選択を促すため、「自動車補修用リサイクル部品のラベリング規格に関するJIS開発」の実現に向け、連携していく。

◆当日の配布資料は経済産業省ホームページからご覧ください。<https://goo.gl/mFGk7G>（←こちらをクリック）

大阪自動車リサイクル協同組合、大整商感謝祭で募金活動



10月8日、大阪自動車リサイクル協同組合が、大阪府自動車整備会館(大阪府大阪市)にて開催された「商工組合2016年大整商感謝祭」に専用ブースを出展し、交通遺児のための募金活動を行いました。

同感謝祭は、大阪府自動車整備商工組合が主催する整備関連機器の展示会で、大勢の来場者で賑わう毎年恒例の催しです。大阪自動車リサイクル協同組合は、日頃から整備業界など異業種との交流を積極的に図っており、今回それが実を結ぶ形で初出展を果たしました。

(←写真:大阪自動車リサイクル協同組合の専用ブース)

専用ブースでは、100円・500円・1000円の3つのコーナーに分かれて、組合員から集めたETC車載器・ルームミラー・ヘッドライト・カーナビゲーションなどの中古部品が販売されました。また、組合員一覧が掲載されたチラシや組合の広告入りティッシュを配布するなどして、組合のPRにも精力的に取り組んでいました。

大阪自動車リサイクル協同組合では、以前より継続的に交通遺児のための募金活動を実施しており、専用ブースでも「交通遺児に愛の手を！チャリティーバザー」を合言葉として募金箱を設置し、来場者に向けて募金の協力を呼びかけました。今回集まった募金や中古部品の売り上げは、すべて大阪交通災害遺族会に寄付され、交通遺児の支援に役立てられます。

大阪自動車リサイクル協同組合の埜村岳史理事長は、「今後もこのようなイベントに参加して、交通遺児救済に取り組んでいきたいです。また、今回のようなイベントの来場者の方々は、当組合員個人はご存知でも、組合そのものを知らないという方が多く、まだまだ周知徹底を図らねばと思います。そして、自動車解体業そのものの認知度が高まり、幅広いお付き合いにつながっていければ——」と話していました。

東京自動車リサイクル協議会（ELV機構所属）の構成団体

東京江戸川組合40周年記念式典



10月16日、東京江戸川自動車解体商興会(ELV機構所属の東京自動車リサイクル協議会の構成団体のひとつ)が「創立40周年記念式典・祝賀会」をタワーホール船堀(東京都江戸川区)にて開催しました。同会には、ELV機構本部から酒井代表理事と奥野事務局長が参加しました。

当日は、自動車リサイクル業界の歴史から組合のこれまでの歩みを振り返ったオープニングムービーに始まり、現会長の栗山義広氏から歴代の会長らへの感謝状贈呈などが行われました。

ELV機構役員 参加行事一覧

(今号の記事になっているものは除く)

10月21日(金)

**日本トラックリファインパーツ協会
総会懇親会**

[メルパルク東京/東京都港区]

10月24日(月)

**NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
30周年記念祝賀会**

[ヒルトン福岡/福岡県福岡市]

10月24日(月)

第2回 東北貴金属リサイクルフォーラム
[TKPガーデンシティ仙台/宮城県仙台市]

※主催:

東北大学・東北発素材技術先端プロジェクト
希少元素高効率抽出技術拠点

自動車メーカー提供記事（本田技研工業株式会社）

■電気二重層キャパシタ※1（EDLC）搭載車の取扱注意事項について

アイドルストップは自動車の燃費向上に効果をもたらします。アイドルストップからのスムーズな再始動のためEDLCを採用している車種があります。廃車処理時の安全作業のためキャパシタ内に残留する電荷を強制放電する必要があります。強制放電は、12V鉛バッテリーを外す前に行う必要があるため、作業手順に注意が必要です。

EDLCは、現在フィット13G（DBA-GK3）およびヴェゼルG／X／S（DBA-RU1／RU2）に搭載されています。

搭載車種は、ボンネット裏側にラベルが貼られていますので、廃車処理時に必ず確認してください。



強制放電の方法は、ホンダのホームページ※2を参照の上、正しく作業してください。

放電作業後のEDLCは車から取り外さずに廃棄してください。



◀ ※1 電気二重層キャパシタ（EDLC）

電気回路部品などに用いられるコンデンサ（キャパシタと同義）に比べ極めて大きい静電容量を得ることができます。大電流で急速な充放電が可能です。フィット13G（DBA-GK3）およびヴェゼルG／X／S（DBA-RU1／RU2）に用いられているものは、最大16Vの電圧を有します。

※2 「EDLC MODULE」の強制放電マニュアル http://www.honda.co.jp/auto-recycle/recycle_09.html

■ハイブリッド、EV車の駆動用バッテリー リサイクルに関するご協力のお願い

ホンダは使用済みになったハイブリッド、EV車の駆動用バッテリー（ニッケル水素バッテリー、リチウムイオンバッテリー）の回収と再資源化を行い環境の保全と資源の有効活用に取り組んでいます。駆動用バッテリーの取り外しと保管は安全のためにホンダのホームページ※3を参照の上、正しく作業してください。

※3 ハイブリッド、EV車の駆動用バッテリーの回収と取り外し作業マニュアル

http://www.honda.co.jp/auto-recycle/recycle_07.html

また車両から駆動用バッテリーを取り外した際は、下記「ホンダバッテリー回収窓口」へご連絡頂き、回収にご協力ください。

TEL: 0120-910574（フリーダイヤル）、FAX: 0120-918561、メールアドレス: HT_Material@hondatrading.net

車両から駆動用バッテリーを取り外す前、または取り外す際に異常が認められた場合は、必ず下記にご連絡ください。

本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）

鉄スクラップ最新情報

■ 10月第4週(21日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



10月21日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H 2	気配
関東	北関東	18,500 ~ 19,500	様子見横ばい
	南関東	18,500 ~ 19,500	様子見横ばい
名古屋		19,000 ~ 19,500	様子見横ばい
関西	大阪	19,000 ~ 20,000	様子見横ばい
	姫路	19,500 ~ 20,500	様子見横ばい

国内市場 様子見商状で値動き見られず

国内の鉄スクラップ市場は、様子見商状が続いており、値動きが見られない。内外に強材料が台頭しているものの、北海道や中部、西日本市場では1カ月以降にわたり、膠着した相場推移が続いている状況だ。

海外市場では、トルコの鉄スクラップ輸入価格が反発に転じ、アジア市場でも欧米玉の商談価格は上伸する気配を見せている。また、アジアの鋼材・半製品市場も反発に転じた。国内市場では、高炉メーカーが市中スクラップ手当てを強化するなど、内外市場で強材料が目立ち始めている。

しかし、日本産鉄スクラップ市場では、韓国の現代製鉄が新断の輸入価格については値上げを打診してきたものの、H2への関心は示していない。東南アジア市場でも目立った商談のニュースがない状態が続いているのが現状だ。このため、関東湾岸で浜値の一部に高値が出始めたものの、こうした動きは一部にとどまっている。また国内市場でも、輸出市場が続落していた際にも国内電炉各社は購入価格を概ね据え置いてきたこともあり、現時点で国内電炉各社が購入姿勢を転換するタイミングにないことも確かだ。

【関東地区】電炉の様子見姿勢続く 浜値で高値も

関東地区では、品種別に対応を行う動きも出ているが、電炉筋の大勢は様子見姿勢を維持しており相場は横ばいで推移している。一部で荷止や荷受制限の対応が散発しているが、電炉各社は慎重な対応に終始しており、購入価格を引き下げる動きを見せていない。一方、湾岸商社・シッパー筋の一部では集荷価格を引き上げる動きも見られる。H2炉前実勢価格は1トあたり18,500~19,500円中心。H2浜値は18,000円中心、高値18,500円見当。

【東海地区】電炉筋はなお様子見対応で膠着市況続く

名古屋地区の鉄スクラップ市況は様子見推移が続いている。地区電炉筋の生産は比較的堅調ムードにある一方、市中発生は低調感が強いいため、荷動きは全般に勢いに欠ける。輸出の先行き不透明感などから、業者筋の多くは様子見ながらも出荷を続けており、電炉筋の入荷は順調。需給関係は引締まり感に欠けるが、市中玉の荷余りも目立たず、市況の横ばいが1カ月以上にわたり続いている。H2炉前実勢価格は19,000~19,500円中心。

【関西地区】必要量維持に向け積極購入継続の動き

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見横ばいで推移している。アジア圏における需要の足並みはいまだ揃っておらず、輸出マーケットに反発力を欠いている。しかし一頃のような不振からは脱却しているほか、地区内では高炉需要などに支えられ、電炉間の入荷促進が緩まる気配にない。このため引き合いを維持したまま11月入りする公算が大きい。H2炉前実勢価格は19,000~20,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は19,500~20,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月21日午後時点のもの)

行事予定

11月の主な予定

11月 1日（火）

●第4回 常任役員会

11月 2日（水）

●JIS開発事業 第5回 原案作成WG

11月 4日（金）

●中国・四国ブロック会議

11月 7日（月）

●自動車及び車体工場見学会

11月 9日（水）～10日（木）

●自動車リサイクル士制度認定講習会 東京会場

11月11日（金）

●JIS開発事業 ヒアリング

11月15日（火）

●第8回 広報部会

11月18日（金）

●第1回 業界関係団体交流会

11月19日（土）～20日（日）

●関東ブロック交流会

11月21日（月）

●近畿ブロック会議

11月26日（土）

●九州ブロック全体報告会



お知らせ

◆会員数（2016年10月末日時点）

総数 559社 / 会員 533社、賛助会員 26社

◆鳥取県中部地震：お見舞いとご報告

10月21日、鳥取県中部地震が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。この地震における会員被害状況を現在把握できている範囲でご報告させていただきます。

【山陰E L Vリサイクル協議会】鳥取県・島根県

- ☐ 人的被害はなし。
- ☐ ただし、複数の社員の自宅において家財被害の出た会社あり。
- ☐ 棚が倒れるなどして商品に被害の出た会社あり。

【岡山自動車リサイクル協同組合】岡山県

- ☐ 全会員、特に被害は出ておらず全社通常営業。

ご自身も大変なときに組合員様にヒアリングを行い、被害状況をご報告くださった組合の代表者様には厚く御礼申し上げます。被災地の皆様へ、何とぞお疲れの出ませんように、そして、一日も早い復旧をお祈りしております。

編集後記

10月17日に(株)三森コーポレーション代表取締役社長でありフィジー日本総領事でもある、故 守屋隆之氏のお別れ会が宮城県仙台市で執り行われました。全国各地から、また海外からと多くの方々が弔問に訪れました。その数は800人を越え、自動車業界のみならず、政界や様々な業種、業界の方々が足を運びました。守屋氏が生前にいかに多くの人間に愛され、影響をもたらし、活躍をされていたかが伺い知れます。▼かく言う私も守屋氏にはお世話になった一人。自動車リサイクル部品業界が産声を上げ、氣勢を上げ始めたちょうどその頃、守屋氏は最前線で業界づくりのために粉骨砕身の努力をされていました。そんな激務の中でも、右往左往する我々に対しての気遣い、フォローを決して忘れることはありませんでした。こうして1社1社の底上げがなされたからこそリサイクル部品業界は発展し、市場を拡大することができたのです。▼お別れは悲しいことです。しかし、いつまでも悲しみに暮れているわけにはいきません。守屋氏の志、精神を受け継ぎ、この厳しい時代を乗り切ってゆくことこそが守屋氏に対する最大の供養と思います。（広報部会 部会長 永田 則男）